

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「人文学の幅広い教養」と専門的知識のバランスの良い習得を向上させる。	→複数分野専攻制(Multidisciplinary Studies : MDS)および文学部内副専攻の履修者数および修了者数	B	B	B	B	B
2. 学位授与の基準を向上させる。	→文学部GPA分布	D	D	C	C	C
3. 卒業生の進路決定率を上げる。	→本学キャリアセンターによる進路調査データにおける就職決定率、大学院進学率	C	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学生に対して、MDSおよび文学部内副専攻の両制度の利用の促進を図ってきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か MDSの履修者は昨年度より減少した(2012年度23名→2013年度20名)。修了者についても微減した(9名→7名)。文学部内副専攻については履修者はほぼ変わらなかったが(92名→94名)、修了者については減少した(65名→39名)。いずれの制度についても、履修者に占める修了者の割合は、昨年度よりも減少した(MDS: 39%→35%; 文学部内副専攻: 71%→41%)。変動はあるものの、目標の進捗としては一定の効果を上げている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 両制度とも修了者の割合を増加させるべく、今後は修了の可能性について熟慮した上で制度を利用することを指導する。	☆
		その他	☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 成績不振者に対しては、個人面談によってその原因を究明する試みを開始しており、成績優秀者に対しては育英奨学金を交付し、毎年6月には学長出席のもと授与式を開催している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の4年生の卒業時における平均GPAは、昨年度から若干減少した(2.09→2.04)。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き成績不振者に対する個人面談を実施していき、今後効果が出ることを期待している。また、演習など少人数科目の内容をより充実させることで個々人に対するきめ細やかな指導を強化し、学力の向上に努める。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 演習の指導教員の協力のもと、各学生に対して、積極的にキャリアガイダンスなどのキャリアセンター主催のプログラムへの参加を促してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 就職率(旧就職決定率)、就職・進路決定率(旧就職率)ともに前年度よりも上昇している(就職率: 95.0%→96.8%; 就職・進路決定率: 82.5%→85.4%)。進路決定率を上げるという目標は一定の成果をあげたといえる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本学部は、就職率および就職・進路決定率が上昇したとはいえ、他学部に比べると若干低い値となっている。就職活動と並行して、教職や進学を目指す学生が比較的多いからである。今後も引き続き、早めに進路について考えるよう学生を指導していく。	☆
		その他	☆
備考			☆